

輸入粗飼料の情勢

全 酪 連
購 買 生 産 指 導 部
購 買 推 進 課

北米コンテナ船情勢

米国西海岸における北米西岸港湾労組（ILWU）と雇用主団体（PMA）の労使交渉は賃金と年金給付に関する交渉が難航していましたが、現地6月14日に暫定合意に至りました。現在は各港通常稼働となっていますが、6月上旬に発生した抗議活動の影響によりスケジュール遅延や、滞船数の増加が発生しました。労使交渉の本契約は秋頃と予想されており抗議活動は回避される見通しですが、今後も経過には注視が必要です。

カナダ西海岸では春先からカナダ西岸港湾労組（ILWU CANADA）と雇用主団体（BCMEA）の労使交渉が始まっていましたが、両者合意には至らず7月1日よりストライキに発展しています。現時点、ストライキの詳細は明らかになっていませんが、スケジュール遅延や荷役遅延といった影響が懸念されます。

ビートパルプ

【米国】

23—24年産のビートパルプの播種作業は終了しており、作付けされた面積は昨年並となっています。6月は乾燥した気候で降雨がほとんどなく7月以降の降雨が望まれています。市場については、米国西海岸で新穀乾牧草の生産も順調に行われていることから、輸出向け、米国向けの需要も少なく産地相場を慎重に見極めている状況です。

アルファルファ

ワシントン州

主産地であるコロンビアベースンでは、23年産1番刈の収穫が終了し、南部の早い圃場では2番刈の収穫が開始されています。23年産の1番刈の収穫は春先の冷涼な気候により例年に比べ、2～3週間遅れて開始されましたが、収穫作業は気温の上昇も伴い順調に進み、6月末時点で例年よりも早い進捗状況となりました。このまま2番刈以降も順調に収穫が進めば輸出向け用として4番刈の生産まで行われる見込みです。1番刈の品質は、カナダからの山火事による煙がコロンビアベースンに流入し

たことで、乾燥に時間が掛かり、一部の地域では降雨被害もあったことから産地全体で上級品の発生は少なくなっています。

新穀の取引については輸出業者や生産農家も産地相場を慎重に見極める動きが続いており、未だに相場は形成されていない状況です。

中東や中国といった輸出向けも低調な買付進捗になっていますが、繰り越し在庫が減少するにつれ買付を始めることも予想されるため、2番刈以降の相場の動きには注意が必要です。



左：ワシントン産1番刈アルファルファ

右：コロンビアベースン2番刈りアルファルファの圃場写真（6月下旬撮影）

オレゴン州

主産地であるオレゴン州クラマスフォールズでは、春先の不安定な気候により例年よりも収穫作業が遅れ、6月中旬以降に23年産1番刈の収穫が始まりました。現在、収穫作業は終盤を迎えており、収穫されたアルファルファの一部では見た目が綺麗な良品も発生しています。

カリフォルニア州

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは現在4番刈の収穫が終了し、圃場によっては5番刈の収穫が開始されています。産地では夏季に入り連日40℃を超える気温のため、成分値が減少し茎が細く、過乾燥気味なサマーハイ中心の発生となっています。中東や中国といった輸出向けには最上級品の買付が行われていますが、上級品以下の引き合いは需要が低調なことから、産地相場は軟調に推移しています。

インペリアルバレー灌漑局の発表によると、6月15日時点でのアルファルファの作付面積は151,915エーカー（前年同期は133,831エーカー）と前年同期比114%と増加しています。

米国産チモシー

主産地であるワシントン州コロンビアベースン及びエレンズバーグでは5月下旬から23年産1番刈の収穫作業を開始し現在、終盤戦を迎えています。コロンビアベースンでは収穫期に降雨が複数回発生したことから上級品の発生が少なく、中～低級品の発生が多くなっています。

産地の多くの輸出業者は22年産の旧穀在庫を抱えていることもあり、23年産の産地相場は未だ形成されていませんが、価格の軟化が期待されています。生産農家も産地相場の軟化を見込んでおり、豆類やとうもろこしといった換金作物に転作している圃場も多く、2番刈の生産量は大幅に減少すると見込まれています。

スーダングラス

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、6月上旬より23年産の収穫が本格化しています。日本向けの出荷が減少し、産地の多くの輸出業者は22年産の旧穀在庫を抱えていることもあり、例年より遅い買付進捗になる見込みです。

灌漑局の発表によると、7月1日時点での作付面積は23,540エーカー（前年同期は48,033エーカー）、前年同時期比49%となっており、作付けが開始されてから減少が続いています。しかしながら、日本向けの需要に対しては旧穀在庫も十分にあるため供給力に懸念はなく、作付面積減少により産地相場が上昇することも考えにくい状況です。



23年産スーダングラス（6月下旬撮影）

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、2番刈の収穫は終盤を迎えており、圃場によっては3番刈の収穫が開始されています。ミード湖の水位上

昇による水不足の解消、干ばつも緩和されているため米国内の酪農家からの引き合いも軟化し、産地価格は軟調に推移しています。

インペリアルバレー灌漑局の発表によると、6月15日時点でのクレイングラスの作付面積は22,190エーカー（前年同期19,122エーカー）となっており、前年同時期比116%と増加しています。

バミューダ

主産地であるカリフォルニア州インペリアルバレーでは2番刈の収穫作業が行われており、一部の圃場では3番刈の収穫が開始されています。7月中旬よりバミューダの種子の収穫が開始され、同時に副産物のストローの収穫も始まる見込みです。

インペリアルバレー灌漑局の発表によると、6月15日時点の作付面積は65,066エーカー（前年同期62,132エーカー）と前年同期比105%の作付面積となっています。

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーでは、6月下旬より23年産の播種作業が始まりました。7月中旬から収穫が開始される見込みです。

カナダ産チモシー

主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区では、期待されていた降雨も6月中旬まで降らず、例年よりも乾燥した状況が続いています。このため1番刈の生育も進まず収穫が遅れる見込みです。また、山火事の影響で煙による日照不足や乾燥に時間がかかることから上級品の発生が少なくなることも危惧されています。

同州南部レスブリッジ地区では昨年より2～3週間早く23年産1番刈の収穫が始まっています。温暖な気候もあり、収穫時期の降雨も少なければ上級品の発生が期待できます。

豪州産オーツハイ

23年産の作付作業は終了しています。作況については6月に生産地全域でまとまった降雨に恵まれたこともあり順調に生育は進んでいます。7月以降は乾燥が強まる予報となっており、降雨不足が心配されています。

以上